

3次元画像コンファレンス講演申し込みの手引き

■ 提出書類一式

以下の2つを提出して下さい。

1. 講演申込票
2. 内容梗概（査読対象）

■ 書式に関する規定

以下の規定を厳守して下さい。

1. 用紙サイズ：A4 サイズ
2. 文字サイズ：10pt もしくは 10.5pt（講演題目も含めて）
3. ページ数：講演申込票、内容梗概共に各々1ページ（分量厳守）
4. 段組等：添付の記入例を参照のこと

■ 申込方法

本年より WEB 投稿となります。以下 URL よりご登録、ご投稿をお願いいたします。

<https://goo.gl/forms/aAresVhFERS7iv6e2>

※書式および分量が不適合な場合、不採録となりますので、ご注意ください。

■ 口頭発表とポスター発表について

一般講演には「口頭発表」と「ポスター発表」があります。査読および論文集掲載において、両者はまったく同等・同格として扱われます。ポスター発表では、ご研究成果のデモンストレーションを行うことも可能です。本お申込み手引きでの注意事項をよくご理解の上、講演申込票にて講演形態をご指定ください。本コンファレンスはシングルトラックの構成であり、ポスター発表のみのセッション（時間帯）を設けます。併せて、当日にはポスターの概要を口頭で紹介する機会を1分弱ずつ設けます。ポスターを貼付するためのパネルの大きさ等の詳細につきましては採録時にご連絡いたします。

発表形態は、ご希望を伺いますが、最終的にはプログラム編成の段階にて、実行委員会から指定させていただきます。発表形態を変更させていただく場合と、デモ希望であってもデモをお断りする場合がありますことを予めご了承ください。発表機材類および会場要件に関する詳細は、採録論文の提出時に再度のお尋ねをいたします。

■ 書式の提出における注意（重要）

査読はシングルブラインド形式であり、内容梗概には著者名を明記してください。過去（2008 年度以前）に必要としていた「関連発表歴」は無用です。

投稿論文の新規性を確認するため、既発表の関連研究の自著がある場合には、今回の発表との相違点を内容梗概に明記してください。相違点を含む新規性の点は、査読における重要な判断基準となります。

申込時の講演題目、著者名で査読、および、プログラム編成をいたします。採録論文の提出時に変更のないよう、ご注意ください。論文の本質に関わる点でのタイトル等の変更が生じた場合には、採録取り消しとなる場合があることを予めご了解ください。

■ 申し込み時における確認承諾事項（重要）

採録された論文の著作権は、3次元画像コンファレンス実行委員会に帰属します。研究倫理、および、プライバシー保護の点より、評価等を目的としてヒト（実験協力者、被験者）を用いた事例、例えば、生理、心理、ヒューマンファクタ等に関わる事例、若しくは、論文中において研究開発成果の応用を例示するために、開発されたシステムのユーザを撮影した写真を用いる等の場合には、ヘルシンキ宣言などの各種学会、団体が定める倫理規定を遵守していること、各実施機関における倫理審査承認の手続きを経ていること、写真撮影における被撮影者からの許諾を得ていること、以上を申込みと採録の必須条件といたします。

査読による採否判定の他、申込み書式の不備による不採録、論文の本質に関わる点での申込時からの変更による採録取り消し、発表形態の指定、および、その他の合理的な事由に基づく著者への指示は、コンファレンス実行委員会の裁量といたします。

以上の確認承諾事項について十分にご理解の上、お申込みください。お申込みは上記全てについて承諾をなされた上で行われたものとして取り扱います。

別表：講演論文の分野

講演申込票（1ページ目）の第4項目は、下記から選んで記載して下さい。主分野を必ず1つ選択し、副分野を2つまで選んでください。適切な分野が見つからない場合は、「その他」と記載してください。

- 3次元入力デバイスまたはシステム、レンジファインダおよび測距システム、3次元ポインティングデバイスまたはシステム、3次元インタラクション技法、その他の入力デバイスまたはシステム
- 画像認識、画像理解、画像生成、画像処理、3次元画像に関わる諸アルゴリズム、符号化、可視化、シミュレーション、VRおよび臨場感
- 立体視ディスプレイ（ステレオ）、立体視ディスプレイ（多眼）、立体視ディスプレイ（ホログラフィ）、立体視ディスプレイ（体積表示）、立体視ディスプレイ（その他）、立体ディスプレイ、立体プロジェクションデバイスまたはシステム、空間投影デバイスまたはシステム
- ホログラフィ（素子）、ホログラフィ（アルゴリズム・CGH）、ホログラフィ（プリンタ）、ホログラフィ（その他）
- 3次元プリンティングシステム、その他の出力デバイスまたはシステム
- 作像デバイスとその応用
- 視覚生理、視覚心理、視知覚、認知、3次元画像システムの評価、その他のヒューマンファクタ
- 医療応用（診断）、医療応用（治療）、医療応用（その他）、通信・放送応用、産業応用、教育応用、アート応用、アミューズメント応用、その他の応用
- その他

注意：以上は目安として、大まかな領域ごとに箇条書きにしたものです。主分野、副分野の記述の際には、カンマで区切られた語彙、語句から選択してください。箇条書きの1行を丸ごと記述することはしないでください。

内容梗概（2ページ目：査読対象）

1. 講演題目：
2. 著者名：
3. キーワード（5つまで）：
4. 本文（1段組・2段組、いずれも可）：

講演論文の採否を審査するものであることに留意し、学術的な新規性、具体的な方法論、成果の優位性などを明確に記述してください。図表類を含めて1ページ以内にまとめてください。記述すべき項目は以下を参考にしてください。

- (1) 研究の背景および目的：研究の背景や目的を簡潔に記載してください。文献引用で他者との違いを明確化してください。既存の自著の関連発表がある場合には、それらを参考文献として参照し、今回の発表との相違点を明確に記述してください（末尾例）。
- (2) 研究の手法：実装や実験の原理、方法、手順等を具体的に記載してください。
- (3) 成果：成果、結果の新規性・有効性・優位性を明確に記述してください。図表や定量的評価の記載は、読者の理解にとって有効です。
- (4) 結論・まとめ：成果の得失・特徴および、既存成果との対比を論じてください。今後の展望、成果の波及効果等も付記することをお勧めします。
- (5) 参考文献：関連する参考文献を適宜、的確に引用してください。

関連自著について：

既存の自著とは、今回の申し込みでの連名共著者のいずれか1名でも著者として表記されている関連研究の予稿、論文、紀要、著書等を示します。今回の申し込みでの筆頭著者のみの既存自著の有無を問うもので

はありません。

関連自著に関する参照の例：

文献[x]ではコンセプトを提案し、文献[y]ではそれを実装した。今回の発表では○○の点で改良を加え、××倍の精度を得たことを報告する。

内容に関わる重大な変更について：

採録論文の提出時に講演題目、著者名を含む梗概からの大幅な変更がないように、十分に注意してください。論文の本質に関わる変更が生じた場合には、採録を取り消します。

論文中におけるユーザ等の写真について必ず被撮影者からの撮影の許諾を得てください。撮影許諾がなされていない写真を用いた場合、発表後であっても採録を取り消します。また、被撮影者をぼかす等の画像処理を施すことは推奨しません。ぼかすことは、許諾された被撮影者に対して却って失礼な印象を与えることがあります。

記入の悪い例：

他人の研究は知らないが、僕が作ったら、なんとなく動いているみたいなので、きつと新しいのだろう。
理由、根拠等の説明をせずに「～～した。」
「～～した。」の列記